



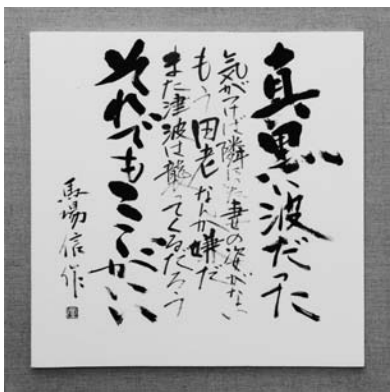
白堊五行歌会



啄木没後100年記念歌集

白堊一握の砂

巻頭の写真は函館の立待岬にある啄木墓碑に刻まれた啄木筆跡の「東海歌」。この五行書きの「東海歌」は啄木の歌稿ノート「暇ナ時」の最後のページに書かれていた。
(吉田孤羊『啄木写真帖』S11改造社より)



白聖五行歌会歌集刊行に寄せて

在京白聖会

会長 馬場 信

在京白聖会に白聖五行歌会が結成されて今年で七年となりました。まことにご同慶の至りでございまして心よりお慶び申し上げます。

在京白聖会のクラブ活動の一つとして設立されたものですが、熱心な会員に支えられて毎月、第一金曜日に例会を開催するなど活発な活動を行っていて、今日では在京白聖会諸クラブの中でも範とする存在となっているのでございます。

また、在京白聖会が毎年年末に開催している白聖芸術祭に際しては、会員有志の作品が展示され、宮澤賢治の朗読を長年続けている野口田鶴子さん（S40年卒）による五行歌作品の朗読が、宮澤賢治の作品の朗読と一緒に Rowe れていきます。芸術祭におけるこうした取り組みは、同時に、五行歌の一般への普及という意義も兼ねているように思われます。

白聖には、母校同窓に石川啄木がいて、啄木が短歌一首を三行に表現したように自由を尊ぶ校風があつて、代表の山田武秋君が在京白聖会に持ち込んだ五行歌についても、自由な表現形式が好まれて白聖にいち早く浸透したものと愚考されます。

一方、今年には啄木没後百年・『悲しき玩具』刊行百年の年にあたります。本歌集の刊行もこれを記念したのですが、もとより、会員諸氏の輝かしい作品発表の場であり、それが啄木の「新しい明日」の一世紀がスタートする記念の年に行われたことは何よりも意義深いものと申せましょう。

最後になりましたが、白聖五行歌会のみならずの発展をお祈り申し上げますとともに、この歌集刊行によって一人でも多くの方が五行歌に親しまれるよう祈念してやみません。

啄木・賢治の志を継いで

白聖五行歌会代表 山田 武秋

啄木没後100年記念歌集『白聖 一握の砂』と題して、本集を上梓させていただきました。「不遜である」「非常識だ」といったお叱りは覚悟の上です。私たちの作品が啄木の足下にも及ばないことも、重々承知しています。

ではなぜ、あえてタイトルに啄木の「一握の砂」を冠したか。それは、これまで確たる定説がなかった啄木の「一握の砂」の意味について、新しい有力な説を提唱することができたからです。この内容は、二〇一一年の国際啄木学会において研究発表をさせていただき、二〇一二年の同学会研究年報に「啄木と『典座教訓』」として掲載させていただきました。こうした成果は、ひとえに六年有余、縷々と継続してきた白聖ミニ講座の積み重ねがあったからです。この講座がなければなし得なかったことでした。

「一握の砂」という言葉には、なす術のなくなった人間の魂を救済する劇的なドラマが秘められています。私たちは啄木のこの祈りを、特に東日

本大震災で罹災された皆様に広く知っていただきたいと思っています。白聖の同窓やその周りには罹災され、復興にご尽力されている仲間が多数おられますが、その復興はまだ端緒にいたばかりです。啄木の歌は、こうした皆様の大きな心の支えになり、応援歌になつてくれるはずです。

五行歌は啄木の短歌革新理論、すなわち行分けおよび従来の五七七七のリズムを打破するという理念のもとに創設された新詩形です。その理論は啄木および青山霞村辺りではほぼ完成されました。百年前と現在では、もちろん詩歌や文学を取り巻く状況は大きく変わっていますが、目標を見失い迷走する中であつて、白聖五行歌会は幸いにも啄木・賢治という先輩や、キラ星のごとく輝く諸先輩、朋輩に導かれ、「新しい明日」を見据えながら歩み続けることができました。白聖歌会は啄木・賢治の志を継ぐものとして、決意を新たにこれからも精進してまいります。

最後になりましたが、啄木との新しい出会いと、その作品にいのちを吹き込む新しい発見の機会を作っていただきました五行歌の会の草壁焔太主宰をはじめ、会友、スタッフの皆々様に篤く御礼申し上げます。

平成二十四年（二〇一二）五月十三日

母校創立記念日に

白聖一握の砂

〈目次〉

序 白聖五行歌会歌集刊行に寄せて	在京白聖会会表	馬場 信	4
啄木・賢治の志を継いで	白聖五行歌会代表	山田 武秋	6

〈会員作品〉

八十若	15	山田 武秋	55
光 平	23	颯 嵩誉	63
だいてんち	31	吉田美雅子	71
伊奈 裕	39	三浦千波	79
ろろちち	47	平井清子	87

青山すみれ	95	しのぶ	111
酒井里子	103	M I O	119

〈会友作品〉

武蔵野詩人	128	も も	136
髭 流	130	村井三郎	137
及川 謙	132	菜 摘	137
田川宏朗	134		

〈コラム〉

・アンナ・アフマートワのこと	馬場 信	138
----------------	------	-----

〈ミニ講座〉

・ 古典の一節を読む (全4回 万葉集・枕草子・源氏物語)	八十若	144
・ 啄木と賢治の指紋	光平	152
・ 『Gogyohka』を読む (全6回)	伊奈裕	155
・ Gogyohkaアラカルト (全4回)	伊奈裕	167
・ 英語で『万葉集』を鑑賞 (全3回)	伊奈裕	175
・ マナー講座	ろろちち	180
・ 五行歌の「思い」について (全2回)	山田武秋	182
・ 啄木と五行歌 (全3回)	山田武秋	186
・ 啄木と道元 (全5回)	山田武秋	192
・ 2年間を振り返って (全2回)	青山すみれ	202
・ 五行歌つれづれ (全3回)	酒井里子	206

あとがき

山田武秋

212

〈カバー絵〉

三浦千波

〈五行歌の書〉

武田素虹(武田夏実)

会員作品



白堊芸術祭の恒例行事となった
野口田鶴子さんによる「宮澤賢治と五行歌の朗読会」